

女性医師の就労に影響を与える因子の検討

【論文要旨：第58巻 日本公衆衛生雑誌 第6号 平成23年】

目的：前回行った研修医調査にて女性医師は男性医師よりも自信度が低い、さらには約7割の女性研修医が仕事よりも私生活に関心が高いことが明らかとなっています（本HP右“我が国の女性医師問題”を参照してください）。これから修練が必要とされる大切な時期にこのような結果が見られたことは女性医師の就労モチベーションに負の影響を与えている可能性があります。男女の自信度の差は欧米でも同じように報告があります。欧米の研究では女性医師の就労モチベーションは、性差による就労機会格差と関連のあることが示唆されています。そこで本研究では、性差に伴う男女就労機会格差に対する認識と就労上の不利益な経験について男女間で差があるか検討を行い、さらに女性医師の就労に影響を与える因子について検討しました。

方法：某私立医科大学を卒業したの男女の医師が研究対象です。男女就労機会格差については、「医学部で女性は昇進しにくい」を筆頭に14問を作成し、因子分析を用いて男女就労機会格差変数を作成しました。就労上の不利益な経験については、「性別のために有給ポスト獲得・昇進人事・終身雇用の機会を得られなかったと感じる経験はありましたか」と尋ねました。就労形態（週40時間以上をフルタイム、それ以下をパートタイムと定義）をアウトカムとし、専門医取得の有無、性差に伴う就労上の不利益な体験、男女就労機会格差、子供の有無、世帯収入などの影響をロジスティック分析にて検討しました。

結果：性差に伴う就労上の不利益な経験について「あった」と回答した医師は女性で40名（18%）、男性では15名（3%）でした（ $p < 0.0001$ ）。就労機会格差の14項目は1項目を除いてすべての項目で、男性よりも女性においてその点数が高値でした。女性医師における就労形態はフルタイムが66%、パートタイムが32%、無職および休職は2%でした。女性医師のみを対象としたロジスティック分析では、フルタイムに比して、パートタイムで婚姻率が高く（ $p = 0.0004$ ）、就労格差の総得点が高値でした（trend $p = 0.034$ ）。またパートタイムに比して、フルタイムは専門医を取得している医師が多かった（ $p = 0.048$ ）。子どもの有無、世帯収入は女性医師の就労に有意な影響を与えていませんでした。

結論：性差による就労上の不利益な経験は女性医師に多く、就労機会格差は女性医師で強く認識されていました。女性医師の就労に影響を与える因子として、従前より指摘のあった子供の影響よりも専門医資格取得や就労機会格差に対する認識がより深く関連しました。

女性医師からみた 医学界における男女就労機会格差尺度

(Chronbach's alpha= 0.926)

1)	女性医師は病院の管理職になりにくい。
2)	女性医師は学会の役員になりにくい。
3)	有名病院の有給ポスト獲得に女性医師は不利である。
4)	大学での有給ポストは女性医師で得られにくい。
5)	医学部で女性医師は昇進しにくい。
6)	医局からの留学の機会は女性医師では少ない。
7)	医局は女性よりも男性医師の入局者を歓迎する。
8)	上司からの仕事の評価は女性よりも男性医師で高い。
9)	概して女性医師に対しては十分な研究指導がされにくい。

ステップワイスロジスティック回帰分析（フルタイム vs. パートタイム）

全女性医師の就労に影響を与える因子		既婚女性医師の就労に影響を与える因子	
検討した因子	有意であった因子	検討した因子	有意であった因子
年齢		年齢	
婚姻の有無	婚姻の有無	配偶者の仕事	
専門医取得	専門医取得	子供の有無	
主な所属機関		子供の数	
性別による不利益経験		6歳未満の子供の有無	
男女就労機会格差	男女就労機会格差	保育支援状況	
世帯収入		家庭における育児支援	
		専門医取得	専門医取得
		主な所属機関	主な所属機関
		性別による不利益経験	
		男女就労機会格差	男女就労機会格差
		世帯収入	